

ふろしきの包み方と 刺し子体験



ブック包み



手さげランチ包み



びん包み



刺し子 七宝つなぎ

参考作品



スイカ包み

1枚の四角い布「ふろしき」は、優れたエコバッグ！！
貴重な布は、古くなると「刺し子」で補強し、最後は雑巾に。
素朴な美が魅力の「刺し子」に挑戦してみましょ。

日時 3月16日(水)

1回目 9:30~11:30

2回目 13:30~15:30

場所 川内歴史資料館 研修室

今日の予定

- 1 ふろしきの歴史を学ぶ
- 2 ふろしきで包んでみる
- 3 刺し子の歴史を学ぶ
- 4 刺し子の作品を作る



便利なふろしき

包む物の大きさや形に合わせて、自由に包み方を工夫できます。結び目をほどけばもと通りになり、何度でも使いごみになりません。最近では、レジ袋を削減し、エコバッグ持参が奨励されています。エコバッグとして風呂敷の魅力を見つめてみましょう。



ふろしきの歴史

ふろしきの歴史は大変古く、奈良時代(710~794)の頃だと言われています。正倉院には、8世紀頃の僧侶の袈裟(けさ)や楽人(がくじん)の衣装を包んだ布が残されています。これらの布は、貴重な物の収納に使われ、「裏(つつ)み」、「平包(ひらつつ)み」と呼ばれていました。平安時代(794~1192)の古文書には、平包みのほか、「古路毛都々美(ころもつつみ)」とあり、四角の布が用いられていたことが分かります。

室町時代(1338~1573)になり、三代将軍足利義満が都に建てた大湯殿(だいゆでん)で武将をもてなした際に、各自が家紋入りの袱紗(ふくさ)や平包みに脱いだ衣を包んだり、風呂上りに布の上で身繕(みづくろ)いをしたとの記録があります。これが「風呂」との関りの始まりです。

江戸時代(1693~1868)中期、江戸に普及した風呂屋から「ふろしき」の呼び名が広がりました。世の中が安定し、行商が盛んになると、風呂敷は物を運ぶのに便利な道具(ツール)として普及していきました。ある上方商人が江戸に進出した際に、屋号を染めた風呂敷を用いたところ、評判になり、江戸での商売の成功につながったとの逸話が残っています。



嫁入り風呂敷の習慣

江戸時代、武家や裕福な商家では、婚礼が決まると花嫁の親が、家紋や吉祥文様(きっしょうもんよう)*1 を染め抜いた「嫁入り風呂敷」を大中小のサイズで揃えて嫁入りの際に持たせていました。この習慣が、明治時代には庶民に広がりました。当時は藍染職人がいる紺屋(こんや・こうや・くやどん)*2 が全国各地にありました。

嫁入り先では、大風呂敷は運搬に、小風呂敷は贈り物を包むために重宝しました。古くなると刺し子を施して補強し、ほころびは継ぎを当てて、大切に使いました。また、藍染には殺菌効果もあるためオムツに仕立てられ、最後には雑巾となりました。

太平洋戦争後、アメリカ文化の影響で、日本古来の生活様式や価値観、風習が大きく様変わりすると、「嫁入り風呂敷」の風習も段々に行われなくなりました。現在でも出雲地方では、この伝統が引き継がれています。

*1 吉祥文様 縁起の良い模様やデザイン。それぞれに意味のあるモチーフ。

*2 くやどん 青染めの紺屋を示す鹿児島の方言



世界のふろしき

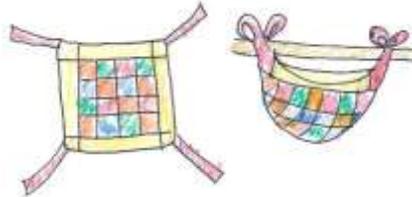
中近東、南米、アジアを中心としてふろしきのような包む文化が世界には存在しています。一方、ヨーロッパにはこの文化はなく、農耕民族に対して、狩猟民族は皮を使っていたためだと言われています。

パオフー	中国	農村地方に包む、運搬、贈り物にする文化がある。
ポーチャ	トルコ	「結ぶ」の意。風呂(ハンマーム)道具を包む。
ボクジェ	イラン	風呂道具、コーランを包む。
ブンディ	ブータン	四隅にひも。押し入れがなく、包んで重ねる。
バンガラ	ネパール	たすき掛けにして背負い、運搬に使う。
ルマール	インド	民族衣装のサリー、運搬のルマール。
マンタ	ペルー	アルパカ、リヤマの毛製で、包んだり羽織ったり。



ポシャギ 韓国

結びひも付き。小布を縫い合わせた包み布で四辺にひも付きのものもある。包んでひもで吊るして収納する独自の文化がある。
国立民俗学博物館蔵



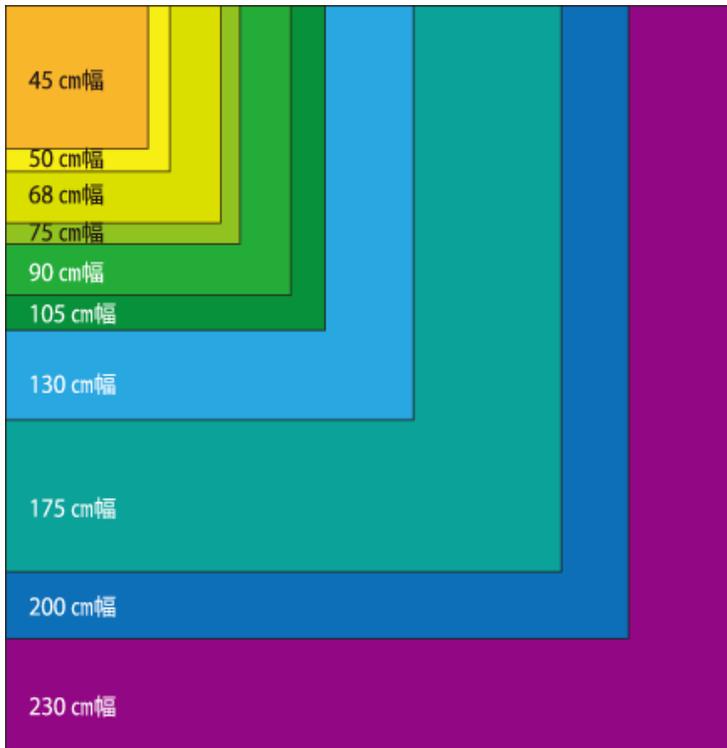
**ウンクーニャ/ワチャラ
(スペイン/ケチュア語)
ペルー**

起毛(ネル) コカの葉を包む
国立民俗学博物館蔵



ふろしきのサイズ

左右の長さを「幅(はば・み)」と呼び、34cm(一幅)が基本です。中幅(ちゅうはば)、一寸三尺(いっすんさんじゃく)、二幅(ふたはば)、三幅(みはば)、四幅(よはば)、五幅(いつはば)、六幅(むはば)、七幅(ななはば)とよみます。



サイズと包めるもの

45cm幅(中幅)	小ふろしき、のし袋
50cm幅(尺三幅)	お弁当包み
68cm幅(二幅)	贈り物の品
75cm幅(二尺幅)	贈り物の品
90cm幅(二四幅)	一升瓶、ワインボトル2本
105cm幅(三幅)	テーブルクロス
130cm幅(四幅)	座布団2枚
175cm幅(五幅)	座布団5枚、ソファーカーバー
200cm幅(六幅)	布団1組、敷物(畳2畳)
230cm幅(七幅)	布団、家具

尺と寸

ふろしきのサイズは、尺貫法の「クジラ尺」で表されます。建築の曲尺(かねじゃく)の一尺は約30センチですが、クジラ尺の一尺は約38センチ。一寸は一尺の1/10の長さになります。



ふるしき いろいろ



彩美ちりめん・柿渋無地
レーヨン 37×37センチ



彩美ちりめん・桜花
レーヨン 58×56センチ



丹後ちりめん・立涌に梅竹
レーヨン 60×58センチ



丹後ちりめん・すすき蝶
レーヨン 57×54センチ



力鮫・両面・綿
49×48センチ



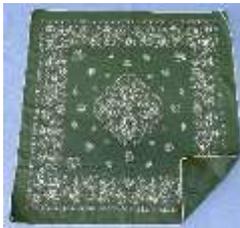
流水花・綿
50×48センチ



蝶・綿
51×53センチ



フクロウ・綿
50×48センチ



ペイズリー・綿
51×50センチ



薄紫無地・ポリエステル
73×72センチ



江戸千代紙いせ辰
ふじみやび
名刺繡入り・小花・綿
86×85センチ



名画・レーヨン
59×53センチ



アートレンディクロス
(池田満寿夫・青地にツル)
ポリエステル 64×63センチ



ウチュクイ 沖縄
紅型の技法。藍型は清明祭や拝
所巡りの重箱・供物などを包む。
国立民俗学博物館蔵



さがの紬・両面
アセテート95%
ポリエステル5%
49×48センチ

お使い包み

四角いもの包むときによく使われます。上で真結びをひとつ作ります。きれいに結べて、さっとほどけます。



ひし形に広げ、包むものを中央に置く。



手前の布端を重ね、三角に折る。向うの端を手前に重ねる。



両端を真結び*3にする。完成。

*3 真結び 結びの基本で、結び目は水平。結び目が横は「たて結び」という。

手さげランチ包み

お弁当などを包むのに最適。ねじって結んだ手さげ部分が持ちやすく、中身が偏らないように水平に持ち運べます。



ひし形に広げる。



手前と向うの布端を結ぶ。



左右の布端を、それぞれ反対方向にねじり、持ち手のように端を真結びする。完成。



インスタントバッグ

3つの結び目で、バッグに早変わり。折りたたむとコンパクトに小さくなるふるしきならではの、エコバッグです。



ふるしきを三角に折り、左右の角を一つ結び。



上の布端を真結びして、完成。

すいか包み

すいかやりんごなど、丸いものを包んでぶら下げられます。可愛いフォルムが、プレゼント・ラッピングに最適です。



ふるしきを四角形に広げる。



隣り合う布端を真結び。



2カ所結んだら、中央に包むものを置く。



片方の結び目に、もう一方をくぐらせる。



持ち手を引き、完成。

びん包み【2本】

2本のビンを真っすぐに下げて持ち運べます。ふろしきが緩衝材となり、割れを防ぎます。



ひし形に広げ、ビン底を合わせて置く。



ビンの首を持ち、二つ折りにし、布端を真結び。完成。



手前から奥に向かって、くるくる巻く。

ビン包み【1本】

ワインボトルなど、1本でオシャレに包みたい時に。華やかなふろしきで包んでみましょう。



ひし形に置く。



三角に折る。



重ねた頂点の布端を、ビンの頂点の高さで結ぶ。



両端を後ろで交差させ、手前で真結び。頂点の2つの布端をそれぞれ反対にねじり、真結び。完成。

ひっかけ結び

大きくて重いもの、平らで長細いものに適した結び方です。風呂敷の長さが足りないようでも、意外と大きなものが包めます。



奥の角を真結び。



右手前の布端を、結び目に通す。



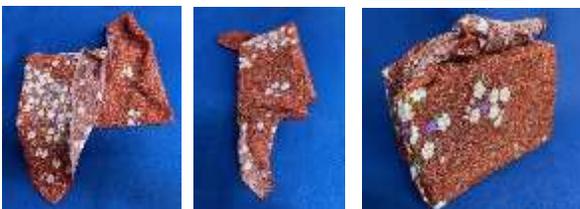
左右の布端を一緒に、左に寄せて真結び。



完成。

本包み【2つ山】

一昔前の子どもたちは、教科書を包んで通学していたそうです。



左右の本を重ね折る。布端を折り目に寄せてぎゅっと絞り引き、結ぶ。完成。

本包み【1つ山】



ひし形に広げる。



手前の布端を向うに重ね、両端を中心に真結び。



真結びして、持ち手を作る。



刺し子とは？

「刺し子」とは、貴重な布地を大切に使う古人の知恵から生まれました。布地に施すことで補強や防寒の効果があります。実用から生まれた手工芸ですが、繰り返しのシンプルな針目が創り出す複雑な模様は、素朴な美として近年、注目されています。

日本三大刺し子 東北の刺し子

保温と補強のため、布に木綿糸で幾何学模様を刺します。土地ごとに模様に個性があり、北国の女性たちの知恵と家族への愛が込められた、日常の美しい手仕事です。

庄内刺し子(山形県)

綿糸で藍染め布に刺します。北前船の航路で、庄内からは紅花や米を、帰りの船荷には綿の古着が運ばれました。綿の育たない地方の庶民にも綿の裂が行きわたりました。

こぎん刺し(青森県津軽地方)

生まれて300年経つと言われ、風土に適した麻を栽培し、麻布に麻糸で刺します。綿糸が入手できるようになると、こぎん刺しは急激に発展しました。

南部菱刺し(青森県南部地方)

200年余り前、寒冷地では綿が育たず、農民の衣服は麻が一般的でした。保温補強のため、麻布に細長のひし形を重ねた模様を刺しました。昭和初期の民藝(みんげい)運動で柳宗悦(やなぎむねよし)氏らが高く評価し、見直されるきっかけとなりました。

七宝つなぎ

平和や円満を意味する円を重ねた吉祥模様。



籠目(かごめ)

竹かごの網目から生まれた模様。たて1、斜め2の直線のみシンプルな模様は初心者向き。



一目刺し

花十字(柿の花)

一定の針目で縦横と規則的に刺す「一目刺し」。びっしりと刺すので、布が丈夫になります。刺していくうちに、模様がだんだんと出現するので、楽しくて1度刺すと夢中になります。同じ力加減、同じ針目が美しいデザインなので、刺し子に慣れたら挑戦してみてください。



*参考作品



刺し子のいろは

デザインを決める

好みの図案を選びます

布を選ぶ

さらし、ガーゼ、シーチングなど布目の粗いものが適しています。

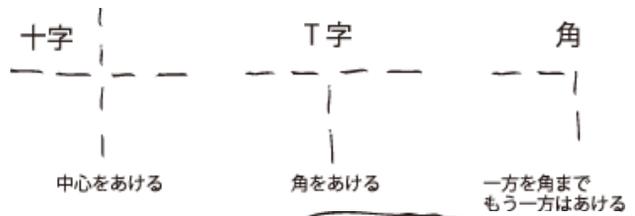
布に図案を記す

チャコなどで正確に描きます

- 方眼を引く
- 方眼を案内として図案を描く

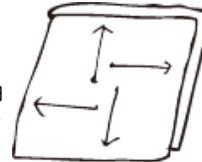
美しい糸目の秘密

糸がぶつかるヶ所は、ひと工夫。



布目のゆがみ防止

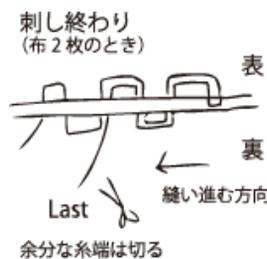
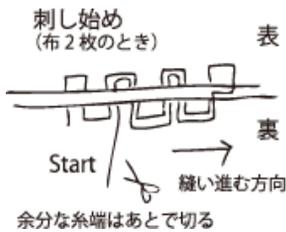
糸を刺すと、生地が伸びたり縮んだりします



大きい布は十字にしつけをかける

糸の始末

基本的には、始まりと終わりは針目を2~3目重ねて糸切りします。途中で糸をつなぐときも同様です。2重布は、玉止めを隠すこともあります。



糸こき

糸を1列ごと、何目か刺したら針を休め、糸をしごきます。力加減で糸引きの強弱が生じるのを整えます。

刺し子の糸

長いまま使うと糸が毛羽立ち、もつれやすくなります。



- ラベルを外し、絡まないように伸ばす。
- 両端の輪に近いところを糸で結ぶ。
- 結び糸を切る。
- 片方の輪を切る。
- 使うときは輪の部分から引き抜く。

アドバイス

初めは小さな作品で練習しましょう。同じ力加減で刺すことで美しい模様の作品となります。少し慣れたら、糸色や布色を変えたり、アレンジを楽しんでみましょう。

参考図書

- 「エコライフにも役立つ！ふろしき大研究 くらしの知恵と和の文化」監修:宮井株式会社
「まいにち、ふろしき カワイイ、カシコイ布と暮らす 結び方・包み方&アレンジ」
京都和文化研究所むす美 山田悦子
「風呂敷」監修:ふろしき研究会 文:森田知都子
「東北の刺し子」庄内刺し子、津軽こぎん刺し、南部菱刺し 編集:今ひろこ
「はじめての手づくり 刺し子こもの」編集:長崎有
「刺し子のふきん」編集:石田由美